

情報通信審議会 情報通信技術分科会 I T U部会（第 20 回）議事録

1 日 時

令和 5 年 1 月 25 日（水）10 時 30 分～11 時 45 分

2 場 所

Web 会議による開催

3 出席者

(1) 委員（50 音順(敬称略)）

伊丹 誠（部会長代理）、江崎 浩、上條 由紀子、三瓶 政一（部会長）

(2) 専門委員（50 音順(敬称略)）

岩田 秀行、内田 信行、岡 敦子、小川 栄治、梶原 ゆみ子、門脇 直人、
上村 治、劔吉 薫、古賀 正章、武田 幸子、丹 康雄、寺田 健二、
永沼 美保、西岡 誠治、浜本 雅樹、宮地 悟史、山本 秀樹

(3) オブザーバー

荒木 則幸（NTT）、一色 耕治（NTT アドバンステクノロジー）、高谷 和宏（NTT）、
三宅 優（KDDI 総合研究所）、山田 徹（NEC）

(4) 総務省

内藤大臣官房審議官

(5) 事務局

中里通信規格課長、重野国際情報分析官 他

4 議事

(1) ITU 電気通信標準化部門（ITU-T）における活動状況の概要

(2) その他

開 会

○三瓶部会長　それでは皆様、定刻となりましたので、これより情報通信審議会情報通信技術分科会ITU部会第20回会合を開催させていただきます。

皆様、本日は御多用のところ御出席いただきまして、どうもありがとうございます。このたび、互選によりまして、ITU部会長を務めさせていただくことになりました大阪大学の三瓶でございます。よろしくお願いいたします。

本日、委員4名全員の方が出席しておりますので、定足数を満たしております。

また、本日は電気通信システム委員会から、宮地専門委員、釧吉専門委員、山本専門委員に御出席いただいております。

また、本日はITU-Tの各SGの要職者・有識者の方々に、オブザーバーとして御出席いただいております。

SG2のNTT-AT一様。

SG5副議長のNTT高谷様。

SG13議長のNICT谷川様。

SG15ワーキングパーティー2議長のNTT荒木様。

SG17副議長のKDDI三宅様。

SG20副議長のNEC山田様。

以上6名でございます。

本日、総務省国際戦略局の田原局長は、別件のため、遅れて御参加の予定となっております。

最初に、総務省官房審議官（国際技術、サイバーセキュリティ担当）の内藤審議官から、御挨拶をお願いいたします。

○内藤審議官　皆様、おはようございます。官房審議官の内藤でございます。局長の田原に代わりまして、私から一言御挨拶申し上げます。

本日は、お忙しいところITU部会に御参加いただきまして、誠にありがとうございます。三瓶先生はじめ皆様には、平素より情報通信行政に御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

このITU部会を始めまして、情報通信審議会は今月より新体制の下でスタートしたところでございます。通常でしたら、本日は最初のITU部会でございますので、部会

長選任等が行われるところでございますけれども、部会傘下の組織を早急に立ち上げる必要がございました関係で、委員の皆様にもメールでの互選をお願いいたしまして、これにより、三瓶委員が部会長に選任され、また、伊丹委員が部会長代理として指名されたほか、部会傘下の委員会の構成員及び主査につきましても、既に指名が行われているところでございます。御報告を申し上げたく存じます。

皆様、既に御案内のとおりでございますけれども、昨年9月、ルーマニアのブカレストで開催されましたITUの全権委員会議におきまして、ITU電気通信標準化部門、いわゆるITU-Tでございますけれども、こちらを担当する電気通信標準化局長にNTTTの尾上誠蔵氏が当選されまして、この1月から着任されているところでございます。私ども総務省といたしましては、尾上新局長、そして、ITU-Tとしっかり連携いたしまして、ICT分野の国際標準化を通じまして、世界に貢献してまいりたいと存じます。構成員の皆様方におかれましては、今後、ITUにおける標準化活動の在り方等につきまして御議論いただき、我が国の国際競争力の強化に向けて御助言を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

本日は、ITU電気通信標準化部門の活動状況について御説明させていただきます。世界電気通信標準化総会、いわゆるWTSA-20につきましては、コロナの影響で開催が延期され、ようやく昨年3月に開催されたところでございますけれども、来年2024年の11月には、早速、次のWTSAの開催が予定されているところでございます。この総会に向けまして、対処方針等について御答申いただきたく、今回は、それに向けて現況の御報告をさせていただくことにてございます。ぜひ、皆様方の活発な御議論をお願い申し上げまして、簡単ではございますが、私からの御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○三瓶部会長　　どうもありがとうございました。

また、総務省側におきまして人事異動があったと聞いておりますので、簡単に御紹介をお願いいたします。

○重野国際情報分析官　　ありがとうございます。

昨年夏の人事異動におきまして、ただいま御挨拶いたしました内藤審議官に加えまして、中里通信規格課長が新たに着任しております。中里通信規格課長より、一言挨拶をお願いいたします。

○中里通信規格課長　　通信規格課長の中里と申します。

昨年6月に着任いたしまして、既に半年以上経ってございますが、この部会の皆様、専門委員には新しい方もいらっしゃいますけれども、活発な御議論をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○三瓶部会長 どうもありがとうございました。

本日の会議ですが、ウェブ会議となりますので、御発言の際にはチャット欄に御氏名を記入いただきまして、マイクをオンにして、お名前を言っていただきまして、御発言をお願いしたいと思います。

また、本日の会議の傍聴につきましては、ウェブ会議システムによる音声のみの傍聴とさせていただきます。

それでは、まず、事務局から配付資料の確認をお願いいたします。

○重野国際情報分析官 資料につきましては、昨日、電子メールにてお送りしております。ただいま議事次第を画面に表示しておりますけれども、議題次第のほかに、下のほうに配付資料とございますが、資料20-1、ITU-TにおけるSGの活動状況、資料20-2、ITU部会傘下の委員会の開催概要、そして参考資料1、2、3としてITU部会構成員一覧、委員会構成員一覧、ITU電気通信標準化局長選挙の結果について、でございます。御確認ください。

以上です。

○三瓶部会長 どうもありがとうございました。

では、続きまして、議事に入ります前に、ITU部会長の互選の経緯につきまして、事務局から御報告をお願いいたします。

○重野国際情報分析官 事務局の総務省の通信規格課国際情報分析官をしております重野と申します。よろしくお願いいたします。

ITU部会長の互選の経緯とITU部会の新体制につきまして御報告いたします。

先ほど、審議官の内藤からも御挨拶の中で少し触れましたけれども、1月12日に開催されました情報通信審議会の総会におきまして、情報通信技術分科会の所属指名が行われまして、委員の皆様におかれましては、前期に引き続き、情報通信技術分科会に御所属いただくことになりました。ITU部会構成員の一覧は参考資料20-1でございます。前期まで情報通信技術分科会及びITU部会に御所属いただいていた大島まり委員につきましては、退任されまして、今期の技術分科会所属委員は1名減の14名となっております。

技術分科会組織の立ち上げにつきましては、当初は1月24日、昨日開催の技術分科会において、分科会長の互選、分科会長代理の指名、そして本日、1月25日水曜日開催のITU部会においてITU部会長の互選及び部会長代理の指名をそれぞれ予定していたところでございますが、先ほど三瓶先生から御発言がありましたとおり、急遽、ITU部会所属の委員会を1月20日金曜日に開催する必要が生じました。このため、早急に分科会とITU部会の組織を立ち上げる必要が生じました。

このため、技術分科会長、ITU部会長につきましては、メールにより互選という形で行わせていただきました。

技術分科会長のメール互選につきましては先週行われまして、ITU部会長のメール互選につきましては先週の1月17日から行いまして、三瓶委員が部会長として選出されました。また、部会長代理につきましては、三瓶部会長より、伊丹委員が指名されました。

以上、御報告申し上げます。

○三瓶部会長　　どうもありがとうございました。

ただいまの報告の経緯のとおり、私が部会長を仰せつかることになりましたので、よろしく願いいたします。

早速ではございますが、ITU部会の開催に当たりまして、私から一言御挨拶を申し上げます。

まず、ITUという組織ですけれども、電気通信の良好な運用によって、各国間の平和的關係、国際協力、経済的、社会的発展を円滑にすることが目的でございます、ITUで、例えば様々な標準規格の策定が行われる、あるいは無線においてはスペクトルの利用などが決められていく、国際的に合意されていくような流れとなっております。そういう意味で、ITUというのは非常に重要な国際協調、国際連携の場であると同時に、情報通信で言うと、標準規格というのもございますし、無線の場合には標準規格の外枠を埋めるというか、詳細規格以外の部分を決めていく、そんな位置づけになっております。

片や情報通信技術というものは、ちょうど現時点で5Gの時代となりまして、2030年には6Gの時代に入ると言われております。そういう中で、情報通信というものが単に情報を運ぶだけではなくて、我々の社会システムの中に深く入り込んでいく時代が変わっていった。すなわち、我々の社会システム全てが情報通信ネットワークに接続さ

れ、オペレーションされていくような時代に入ったということで、情報通信の位置づけというものがより重要な立場になった、そういう時代になっております。

そういう意味で、特に情報通信の分野では標準化ということが重視されますし、あるいは市場にどんどん入っていかなくてはいけない。特に市場に入っていくという部分では、日本はまだ不十分な点が多々あると言われておりますけれども、いずれにしましても、ITUというものは外側で大きなフレームをつくっていくのが重要なミッションになっておりますし、先ほど御報告がありましたけれども、尾上さんがITU-Tの次期の局長として選任されている。そういう中で、ITUの中での活動というものは、より重要な部分になっていくと思われまます。

特にBeyond 5Gの時代には、今まで、地上ネットワークとか、衛星とか、それぞれ別個に議論されていたものが連携して動いていく時代になりまして、そういう意味では、ITUの組織の在り方、議論のやり方も、これから大きく変わっていく時代になるのではないかと予想されるわけですが、そういう中で、ITUの位置づけというものは非常に重要性が増していくタイミングになりますので、日本側の寄与を議論するITU部会の議論というものは非常に重要になっていくのだろうと思われまます。そういう中での議論をより有効なものにしていく、より重要な寄与ができるような部会にしていくという意味で、微力ながら、部会長として仕事をしたいと思われまますので、皆様も御協力をよろしくお願いできればと思われまます。

以上です。

それでは続きまして、部会長代理の伊丹委員より、一言御挨拶をお願いいたします。

○伊丹部会長代理　今回、部会長代理を仰せつかりました伊丹でございます。微力ではございますが、部会長のサポートを務めさせていただければと思われまます。今後とも日本がITUにおいて大きな役割を果たせるよう、皆様からの御意見を参考にさせていただきながら、活発な議論を進めていければと思われまます。よろしくをお願いいたします。

○三瓶部会長　どうもありがとうございました。

では、続きまして、ITU部会の新体制につきまして、事務局から御報告をお願いいたします。

○重野国際情報分析官　ITU部会の組織体制につきまして御報告いたします。参考資料20-2の表の表示をお願いいたします。

ITU部会に所属する委員会の構成員及び委員会の主査につきましては、情報通信審

議会情報通信技術分科会決定第43号第4項の規定により、ITU部会長が指名することとなっております。

本来であれば本日の会議で指名する形であったところですが、先ほど御説明しましたとおり、1月20日に委員会を開催しなければならない事情が発生したことから、先ほど申し上げましたとおり、メール互選において選任されました三瓶部会長より、参考資料20-2のとおり、既に御指名いただいているところでございます。

ITU部会に属する委員会ですが、前会期と同じ、6個の委員会の構成となっております。簡単に御紹介させていただきます。

最初に、電気通信システム委員会、こちらは主査として、引き続き、北陸先端科学技術大学院大学の丹専門委員をお願いしております。

では、次のページをお願いいたします。続きまして、ITU-Rの無線通信諮問委員会(RAG)とSG1を担当いたします周波数管理・作業計画委員会の主査につきましては、一般社団法人電波産業会(ARIB)の横山専門委員をお願いいたしております。

続きまして、次のページをお願いいたします。ITU-RのSG3を担当いたします電波伝搬委員会の主査につきましては、引き続き、情報通信研究機構(NICT)の石井専門委員をお願いしております。

では、次のページをお願いいたします。SG5とSG7を担当いたします衛星・科学業務委員会の主査は、引き続き、東北大学の加藤専門委員をお願いしております。

では、次のページをお願いいたします。ITU-RのSG5を担当いたします地上業務委員会の主査につきましては、引き続き、大阪大学の三瓶委員をお願いしております。

続きまして、次のページをお願いいたします。ITU-RのSG6を担当いたします放送業務委員会の主査につきましては、東京理科大学の伊丹委員をお願いしております。

ITU部会に所属する委員会の構成及び主査につきましては以上でございます。よろしくをお願いいたします。

○三瓶部会長　　どうもありがとうございました。

ただいまの事務局の御説明のとおり、各委員会の主査及び構成員を指名させていただきましたので、よろしくをお願いいたします。

本日はITU部会の構成員が決定してから初めての会合となりますので、皆様から、一言ずつ御挨拶いただきたいと思います。では、事務局からお願いします。

○重野国際情報分析官　　ありがとうございます。

それでは、参考資料20-1（ITU部会構成員名簿）の順に、構成員の皆様方から御挨拶をお願いいたしたいと思えます。

なお、本日、今井専門委員、高嶋専門委員、藤本専門委員は、御都合により御欠席との御連絡をいただいております。

では、三瓶部会長と伊丹部会長代理からは先ほど御挨拶いただきましたので、江崎委員から、御挨拶を一言ずつお願いいたします。

○江崎委員 東京大学の江崎でございます。

いろいろなところで、5G、6G、それからデジタルネットワークに対する要求は非常に大事になってきております。その中でのITUということになりますので、非常に重要なミッションを持っていると思えます。ほかの標準グループとの連携もしつつ、非常に大きな仕事をしなければいけないと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○重野国際情報分析官 ありがとうございます。

では、長崎大学、上條委員、お願いいたします。

○上條委員 長崎大学研究開発推進機構FFGアントレプレナーシップセンターの上條と申します。

今期も情報通信政策のために、知的財産、標準化政策の観点から、微力ながら力を尽くしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上になります。

○重野国際情報分析官 ありがとうございます。

では続きまして、TTC、岩田専門委員、お願いいたします。

○岩田専門委員 おはようございます。皆様、大変お世話になっております。TTCの岩田です。

国内SDOとして、微力ながら貢献させていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○重野国際情報分析官 ありがとうございます。

では、楽天モバイル、内田専門委員、お願いいたします。

○内田専門委員 楽天モバイル、内田でございます。

我々も後発の事業者でありますけれども、ITUにおける活動をランプアップして始めておりますので、微力ながら、この部会に関しても貢献できればと思えますので、よ

ろしくお願いいたします。

○重野国際情報分析官　ありがとうございます。

では、NTT、岡専門委員、お願いいたします。

○岡専門委員　NTTの研究企画部門長を拝命しております岡と申します。

今回からの参加になりますので、いろいろ御指導いただきたいと思います。よろしく
お願いいたします。以上です。

○重野国際情報分析官　ありがとうございます。

では、フジテレビ、小川専門委員、お願いいたします。

○小川専門委員　フジテレビの小川です。

放送業界にとっても、情報通信は非常に密接な関係になっております。この会でいろ
いろ学びながら、協力できるところはしていきたいと思っておりますので、よろしくお
願いいたします。

○重野国際情報分析官　ありがとうございます。

では、富士通、梶原専門委員、よろしくお願いいたします。

○梶原専門委員　富士通の梶原と申します。

過去、何度か出席がかなわない機会がございましたが、今後、グローバルに、情報通信
というのは非常に重要な 이슈でありますので、可能な限り出席し、本部会に貢献で
きるようにしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○重野国際情報分析官　ありがとうございます。

では、NICT、門脇専門委員、よろしくお願いいたします。

○門脇専門委員　NICT理事の門脇でございます。

NICTとしましても、Beyond 5Gの研究開発に関しては、自ら行うと同時に、
国内の企業、大学の皆様等と連携しながら進めている立場でございます。ITUへのイ
ンプットという意味でも非常に重要な部会だと思っておりますので、引き続き、貢献さ
せていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○重野国際情報分析官　ありがとうございます。

では続きまして、ソフトバンク、上村専門委員、お願いいたします。

○上村専門委員　ソフトバンクの上村でございます。

昨今、ITU活動をはじめ、国際標準化活動は非常に重要性も増していると考えてお
ります。私も一部の会合には参加していますが、この場でも、ぜひ貢献してい

たいと考えております。よろしくお願いいたします。

○重野国際情報分析官 ありがとうございました。

続きまして、KDDI、古賀専門委員、お願いいたします。

○古賀専門委員 KDDI、古賀でございます。

KDDIで国際標準化を統括しております。KDDIとして、日本のプレゼンス発揮に、微力ながら貢献したいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

○重野国際情報分析官 ありがとうございました。

では続きまして、日立製作所、武田専門委員、よろしくお願いいたします。

○武田専門委員 おはようございます。株式会社日立製作所研究開発グループ技術戦略室の武田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○重野国際情報分析官 ありがとうございます。

では続きまして、北陸先端科学技術大学院大学、丹専門委員、よろしくお願いいたします。

○丹専門委員 北陸先端大の丹です。

前期に引き続き、有線のITU-Tを中心にお世話になりますけれども、昨今の社会のデジタル化とか、それから我が国でのデジタル田園都市国家構想、こういうもので情報通信と情報処理の間の境目がより一層曖昧になってきているところもありますので、回りのSDOとの連携も含め、皆様方と進めて参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○重野国際情報分析官 ありがとうございます。

では続きまして、NHK、寺田専門委員、よろしくお願いいたします。

○寺田専門委員 NHK、寺田です。

2期目になります、よろしくお願いいたします。放送事業にとっても、情報通信、また、ITUの標準化活動は非常に重要な業務になってきますので、微力ながら協力させていただきます。

○重野国際情報分析官 ありがとうございます。

続きまして、NEC、永沼専門委員、よろしくお願いいたします。

○永沼専門委員 NECの永沼でございます。

NECはITUの3局におけるセクターメンバーでもございます。このセクターメンバーとして、また、私自身、ITU-Tのアドバイザーグループの副議長を拝命して

おります。こちらの観点から、ぜひ貢献してまいりたいと思います。どうかよろしくお願ひいたします。

○重野国際情報分析官 ありがとうございます。

では続きまして、ARIB、西岡専門委員、よろしくお願ひいたします。

○西岡専門委員 ARIBの西岡でございます。

本年はIMT-2030、Beyond 5Gの標準化も本格化していくところだと思ひますので、会の皆様の協力をいただきながら、微力ながら貢献できればと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○重野国際情報分析官 ありがとうございます。

では、NTTドコモ、浜本専門委員、よろしくお願ひいたします。

○浜本専門委員 ドコモの浜本でございます。

ITU活動を通して、5G、及びその先の6Gを社会基盤として有効に展開していければと考えております。微力ながら、このITU活動に対して貢献してまいりたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○重野国際情報分析官 どうもありがとうございます。

では、委員、専門委員の構成員の皆様の御挨拶は以上となります。

○三瓶部会長 どうもありがとうございます。

議 事

(1) ITU電気通信標準化部門 (ITU-T) における活動状況の概要

○三瓶部会長 それでは、議事に入りたいと思ひます。

まず、(1) ITU電気通信標準化部門 (ITU-T) における活動状況の概要について、でございます。

まず事務局から資料を御説明いただき、引き続きまして、各SGの要職者の方から補足コメントをいただきたく思ひます。資料はSGごとに作成されておりますので、SGごとに区切って御説明いただき、その都度、SGの要職者からの補足コメントをいただければと思ひます。全てのSGの御説明が終わりました後に、質疑の時間を設けさせていただきますたいと思ひます。

では最初に、SG 2 関連の活動状況につきまして、事務局より御説明をお願いします。

○重野国際情報分析官 ありがとうございます。

すみません、SG 2 の前に、1 つ前のページで、表示を1 ページ目に戻していただきまして、電気通信標準化部門における昨年2022年のW T S A以降の研究体制ということで、このように11個のSG (スタディーグループ)、それから左下の電気通信標準化諮問委員会がごさいます。SG 9 の宮地議長、SG 13 の谷川議長をはじめ、多くのSGで日本人の役職者が選出されている状況でございます。

では、次のページに進んでいただきまして、SG 2 の活動状況でございます。研究対象は「サービス提供の運用側面及び電気通信管理」です。我が国から選出されているSGの要職者はおりません。

2. 最近の主な議論ですけれども、②SG課題 (Work items) のうち、近年、関連する寄書提出がなくて議論の進展がない7件の課題につきましては削除されました。また、15件の新規課題が開始されているところでございます。続きまして③U P T (Universal Personal Telecommunication) 関連勧告の停止ということで、U P T というものは1993年に承認されたものでございしますが、勧告で特定されるようなU P T サービスが現在既に提供されていないなどといった理由から、U P T 関連の4つの勧告が削除されたことと、関連するSGにはリエゾンが送付されたということでございます。

私からの説明は以上です。

○三瓶部会長 ありがとうございます。

それでは、SG 2 の一色様より、補足コメントがあればお願いいたします。

○一色様 一色です。

そうですね、この資料に関しては特にはないですかね。ただ、②SG 2 課題で、あまり具体的には書いていないですけれども、昨今、特に番号関係で、いろいろ番号詐称とかいう問題が起きていますので、その辺の話とか、あと、サービスの的にはI o T、MTM サービス関係とかのキャリアスイッチング関係とか、あと、O T Tサービス周りの番号に関する話とか、そういったものがかなり寄書も増えて、中心になって議論されている状況でございます。

以上でございます。

○三瓶部会長 ありがとうございます。

では続きまして、SG 5 関連の活動状況につきまして、事務局より御説明をお願いし

ます。

○重野国際情報分析官　ありがとうございます。

では、SG3は飛ばしまして、SG5になります。研究対象は「電磁界、環境、気候活動、持続可能なデジタル化及び循環経済」でございます。我が国からは、SGの副議長としてNTT高谷様をはじめ、記載の方々が要職者として選出されておるところです。

2. 最近の主な議論でございますが、①過電圧、EMC、EMF関連の標準化活動、②環境・気候変動関連の標準化活動が進められておりまして、①の過電圧耐力につきましては、日本からも提案を行っているところでございます。③FG-AI4EE、これはAI及びほかの新技术の環境効率に関するFG（フォーカスグループ）というもので、2022年12月の会合で活動を終了しました。このFGの成果文書につきましては、SG5、SG20で勧告化、補足文書化が予定されております。FGというものですが、右下に補足を入れておりますが、勧告の策定の検討に当たり、幅広く情報を収集することを目的として、ITUのメンバーでなくとも参加可能な時限的な組織でして、これはSG5以外でも、多くのSGでFGの活動を設置しているものでございます。

私からSG5の説明は以上です。

○三瓶部会長　それでは、SG5副議長の高谷様より、補足コメントがあればお願いいたします。

○高谷様　ありがとうございます。

重野様より御説明いただいたとおりですが、SG5は、少し環境と気候変動に関するワーキングパーティー（WP）体制のほうに、今回のWTSAの後に変更がございまして、以前は環境と気候変動を、1つのWPでやっておったんですが、今回、環境的側面で、特にICTに関わる部分、省エネも含めたそういった部分と、あとは気候変動対策、国連からのミッションとしてSG5に使命が課せられているようなところでございますけれども、その2つのWPに分かれて、①と②のほうが2つということで、3つのWP体制で、より詳細な議論をするようになったというところで、少し補足させていただきます。よろしく申し上げます。

○三瓶部会長　ありがとうございました。

では続きまして、SG9関連の活動状況につきまして、事務局より御説明をお願いします。

○重野国際情報分析官　ありがとうございます。

SG 9の活動状況でございます。研究対象は「音声映像コンテンツ伝送及び統合型広帯域ケーブル網」でございます。主にケーブルテレビを対象としております。また、KDDIの宮地様が、前の会期に引き続き、議長を務めておられます。このほかにも日本ケーブルラボ、KDDIからSGの要職者が選出されている状況でございます。

2. 最近の主な議論等といたしましては、①研究課題1：映像及び音声番組伝送、②研究課題4：デジタルケーブルテレビ実装・商用展開のためのガイドラインにつきまして、我が国から積極的に提案を出しております。新規作業項目や補遺文書の改定が合意されているというものです。③研究課題9：高度サービス提供プラットフォームにおきまして、我が国から提案した勧告案「IPマルチキャスト上で可変ビットレート伝送を実現するための要件を定める勧告案」につきまして、合意に向けた検討が進められておる状況でございます。

私からの御説明は以上です。

○三瓶部会長　　ありがとうございました。

では、SG 9議長の宮地専門委員より、補足コメントがあればお願いいたします。

○宮地専門委員　　御説明ありがとうございます。KDDIの宮地です。

活動内容については、基本的に資料の記載のとおりですが、SG 9はITU-Tの中でも放送分野を扱うSGということで、ちょっと特殊な位置づけということもあって、過去、参加人数が少なく、小さなSGとして、会期が切り替わるたびに存続の議論とかにさらされてきました。

そういった中で、前会期、SG 9のモメンタムの向上といったところに取り組んでまして、SG会合のたびにワークショップを開いて、ITU-Tのメンバー外の方にも参加して貰い、そういうプロモーション活動をやってきた結果、前会期、参加者数を期初に比べて期末で1.5倍ぐらい増やしまして、その増えた状態を維持して新会期に突入したという状況です。プロモーション活動を続けてきたおかげもあって、各地域から会合の招聘の手が挙がるような状況にもなっておりまして、1の(3)で2023年は春頃に予定(場所未定)となっているんですが、今、インドからホストの手が挙がってまして、5月にインドで開催すべく、最終調整しているところです。あと2023年の冬に、南米地域から今提案が来ておりまして、その開催に向けて調整を進めているところでございます。あと、5G無線とケーブルテレビの連携みたいなものも取り組み始めていますので、Beyond 5Gの文脈に乗って、日本のプレゼンスもSG 9の中で

示していければと思っております。

以上となります。

○三瓶部会長 どうもありがとうございました。

では続きまして、SG11関連の活動状況につきまして、事務局より御説明をお願いします。

○重野国際情報分析官 SG11につきまして御説明いたします。研究対象は「信号要求、プロトコル、試験仕様及び偽造ICTデバイス対策」でございます。我が国からは、WP3議長としてNICTの釘吉様が選出されております。

2. 最近の主な議論でございますけれども、②量子鍵配送ネットワーク（QKDN）のプロトコルにつきまして、Q2で議論が進展しておりまして、4件の勧告草案が議論されておるところです。これにつきましては、我が国からも積極的に寄書を提出し、議論をリードしているところでございます。③FG-TBFxGということで、Focus Group on Testbeds Federations for IMT-2020 and beyondということで、これはテストベッドの仕様をSDO、標準化機関、それからフォーラム全体で調和させるためのプラットフォームとして機能するものでございます。そのようなFGでございます。2021年12月にSG11会合で設立した後、これまでに3回のバーチャルのFG会合が開催されまして、検討が進められている状況でございます。

私からSG11の御説明は以上です。

○三瓶部会長 どうもありがとうございました。

では、SG11WP3議長の釘吉専門委員より、補足コメントがあればお願いします。

○釘吉専門委員 NICTの釘吉です。

今、御紹介のありましたとおりです。特に量子鍵配送ネットワークに関しては、今、Q2でプロトコルの議論をしています。SG11の検討課題は、より実装に近い、開発に近いところを検討しているということです。今、国内では東京QKDNに、NICTと戦略パートナーの皆様と一緒に、ネットワークの拡張工事と大規模な実証実験を行おうという開発を進めているところです。こちらの標準化は、東京QKDNの開発と実証実験の進捗に合わせて、タイムリーな標準化を行えるよう、国内のベンダーと協力して進めている状況です。この後、SG13、SG17からも量子鍵配送の御報告があると思います。量子鍵配送に関して、複数のSGにまたがった議論が始まっている状況のため、昨年12月のTSAGでは、JCA-QKDN、Joint Coordination Activity

という活動が開始されることが合意されております。今年の3月に第1回目の会合が行われる状況になっています。

以上です。

○三瓶部会長　　ありがとうございました。

では続きまして、SG12関連の活動状況につきまして、事務局より御説明をお願いします。

○重野国際情報分析官　SG12につきまして御説明させていただきます。研究対象は「性能、サービス品質(QoS)及びユーザ体感品質(QoE)でございます。我が国からは、NTTの山岸様がSGの副議長、WP3副議長、Q13ラポーターとして選出されている状況です。

2. 最近の主な議論でございますけれども、①マルチメディア品質の客観モデルとツールの検討、②IPに関するQoSとQoEの検討について議論されております。たくさん記載があるのですが、モバイル音声の関係が①のQ15、ポツの下から2番目と3番目ですけれども、あとは②のQ17、ポツの下から3番目になりますけれども、そういった活動が行われている状況でございます。

私からの御説明は以上です。

○三瓶部会長　　ありがとうございました。

SG12の有識者につきましては、本日、まさに会合の対応中ということで、欠席となっております。

では続きまして、SG13関連の活動状況につきまして、事務局より御説明をお願いいたします。

○重野国際情報分析官　SG13につきまして御説明いたします。研究対象は「将来網及び新興ネットワーク技術」でございます。議長といたしまして、NICTの谷川様が選出されているほか、NICTの方がラポーターとして選出されております。

2. 最近の議論でございます。4つの項目について書いておりますけれども、先ほど釘吉様からも、QKDNについては、SG11、13、17で検討されているということがございましたが、量子鍵配送QKDNについてが、主な議論となっております。そのほかに、②AI(人工知能)、ML(マシンラーニング)、③はFMSCということで固定とモバイルと衛星の連携ということ。この①、②、③につきましては、我が国からも積極的に寄書提出を行っているものでございます。特に②AI/MLでは2ポツ目、

ネットワークの自動運用技術を検討するためのFG-Autonomous Network、ネットワークの自動運用技術の検討をするためのFGというのが我が国の企業からの提案によりまして2020年12月に設置されまして、活発に活動している状況でございます。

私からの説明は以上でございます。谷川様は遅れて御参加という連絡をいただいておりますが、まだ参加されていないようですので、谷川様からのコメントは後回しにさせていただければと思います。

以上です。

○三瓶部会長 分かりました。どうもありがとうございました。

では続きまして、SG15関連の活動状況につきまして、事務局より御説明をお願いいたします。

○重野国際情報分析官 ありがとうございます。

では続きまして、SG15の御説明をさせていただきます。研究対象は「伝送、アクセス及びホーム網のためのネットワーク技術と基盤設備」で、ネットワークのレイヤーを担当するITU-Tの中でも最大規模のスタディグループとなっております。我が国から選出されている要職者としましては、WP2議長としましてNTTの荒木様が選出されているほか、記載の方々がラポーターになっております。

2. 最近の主な議論でございますけれども、4つ紹介しております。①光アクセスシステム関連、②光ファイバー関連、③Optical Transport Network (OTN) 関連、5Gモバイルへの対応、これらはやはり光の伝送の関係でございます。②のマルチコアの光ファイバーなどにつきましては、特に我が国からも積極的な提案を行っている状況でございます。それから④5Gモバイルの大容量・低遅延通信のための高精度時刻・周波数同期技術に関する議論、これらにつきましては時刻同期に関連するものでして、これにつきましては、ほかのSDOとも連携しつつ、検討を進めるという状況でございます。

私からSG15の御説明は以上です。

○三瓶部会長 それでは、SG15WP2議長の荒木様より、補足コメントがあればお願いいたします。

○荒木様 NTTの荒木です。よろしくお願いたします。

先ほど御説明いただきましたように、SG15では光の物理網の実装に近いところの標準化を行っております。西側諸国のベンダー、エリクソン社をはじめ、中国からのベンダー、キャリア、多数参加しております。非常に活発なSGとなっております。

SG15の主な方向性としましては2つ挙げられまして、先ほど御説明いただいたように、将来ネットワークの大容量化とモバイル、主に5G、そしてこれからはBeyond 5Gへの対応という2点を集中してやっております。アクセス系につきましては、50ギガのPONとか、そういった大容量化をどんどん進めていますところと、モバイルフロントホールへの適用ということでWDM-PONなどの新しい技術が使われています。マルチコア光ファイバーをはじめとする将来ネットワークに対するSDM技術、空間多重技術の検討も進めておりまして、将来の光ファイバーネットワークの大容量化にも検討しております。そのほかは5Gの主にコアネットワークへの適用となりますが、こちらは400Gとか、将来、800Gに向けた検討というのも既に始まっておりますし、特に自動運転等のサービスへの適用に向けた低遅延化といったところも検討が進んでいる状況となっております。

以上となります。

○三瓶部会長　　ありがとうございました。

では続きまして、SG16関連の活動状況につきまして、事務局から御説明をお願いします。

○重野国際情報分析官　SG16につきまして御説明いたします。研究対象は「マルチメディア及び関連デジタル技術」でございます。動画コーデックなどの標準化もしております。(2)我が国から選出されております議長・副議長等といたしましては、沖電気工業の山本様が副議長、WP2共同議長、Q27ラポーターとして選出されているほか、記載の方々が要職者となっております。

2. 最近の主な議論としまして、②日本企業・アカデミアからの新規提案としまして、記載の3件の新規勧告作成の提案を行いまして、承認されているところでございます。また、③メタバースに関するFGの設置について提案がありまして、これにつきましては議論が行われまして、メタバースにつきましては、セキュリティーも含めまして、扱う範囲が広いことから、後ほど、最後にTSAG、電気通信標準化諮問委員会のページで御説明いたしますけれども、TSAGの会合におきまして、TSAGを親SGとしましてFGを設置することが承認されたという状況でございます。それから、⑤FGの動向としまして、SG16の配下には3つのFGがあるということで、うち2つから最終報告がなされたという状況でございます。

私からSG16の御説明は以上です。

○三瓶部会長　　ありがとうございました。

SG16副議長の山本専門委員より、補足コメントがあればお願いします。

○山本専門委員　　SG16の副議長を務めさせていただいております沖電気の山本です。

SG16は、毎回400名程度の参加と200件弱の寄書があつて、非常に大規模なところで議論しています。コロナが終わりましたので、実際、ジュネーブでの会議が今始まったところです。日本からは、最近では日本インダストリアルイメージング協会というマシンビジョンの業界団体の方が参加されて、非常に活発に活動されています。こういった活動には岩田様の御指導の下、TTC様に非常に協力いただいて進めております。また、先ほど重野様からお話がありましたメタバースにつきましては、マルチメディアが密接に関係しますので、SG16の下でのFGの設置もSG16として提案しておりましたが、結果的にはTSAGの配下で進めることになりました。しかしながら、もともと提案していましたSG16のメンバーがその中にも関わりつつ、アウトプットに関しては、多くはSG16の中で勧告が進むと思われまますので、今後、そういった活動が盛んになっていくと思います。

以上です。

○三瓶部会長　　ありがとうございました。

では続きまして、SG17関連の活動状況につきまして、事務局より御説明をお願いいたします。

○重野国際情報分析官　　SG17につきまして御説明いたします。研究対象は「セキュリティー」でございます。我が国からは、副議長・WP議長としましてKDDIの三宅様を選出されているほか、記載の方々が要職者となっております。

2. 最近の主な議論につきまして、①から⑤までの5項目を紹介しております。①5Gセキュリティーにつきましては、標準化ロードマップが技術文書として成立したほか、総務省予算により作成しました「5Gセキュリティーガイドライン第1版」が新規作業項目設立として合意されました。②量子鍵配送（QKD）につきましては、SG11、SG13でも触れられておりますけれども、SG13で策定された勧告を踏まえまして、セキュリティー制御の管理に関する要件の検討着手に向けた提案を我が国から行いまして、作業が進められております。④IoTシステムのためのセキュリティー管理策につきましても、我が国から提案を行っているものでございます。

私からSG17の御説明は以上です。

○三瓶部会長　　ありがとうございました。

それでは、SG17副議長の三宅様より、補足コメントがあればお願いいたします。

○三宅様　　KDDIの三宅です。御紹介ありがとうございます。

SG17は、ITU全体を含めてセキュリティー全般を取り扱っているということで、非常に幅広い活動をしているんですが、ここに書かれたことは特に日本が関与しているところかなと思っています。量子鍵配送に関しては、先ほどSG11、13で御紹介があったとおり、日本は非常に貢献している分野であります。あと、委員の方からいろいろ御説明がありましたとおり、特に5G時代になって、通信が非常にいろいろな分野に使われてくるようになったことと、5Gに関しては、アメリカ、ヨーロッパを含め、各国政府レベルで、セキュリティー対策、インフラのセキュリティー対策としていろいろな文書が出ている中で、日本としても、このITU-Tのところに文書を提案しているということです。仕様に関するセキュリティーだけではなくて、システムとか、運用とか、全般ということで、セキュリティーの範囲も非常に広がっているという認識です。Beyond 5G、6Gについても、去年8月にセキュリティーワークショップを開催しまして今後議論していくことになっておりますので、この辺り、非常に重要になるかと考えております。

以上となります。

○三瓶部会長　　ありがとうございました。

では続きまして、SG20関連の活動状況につきまして、事務局より御説明をお願いします。

○重野国際情報分析官　　SG20につきまして御説明いたします。研究対象は「IoTとスマートシティ・コミュニティー」でございます。我が国からは、副議長及びJCA-IoT and SC&C共同コンビナーとしまして、NECの山田様が選出されております。

2. 最近の主な議論でございますけれども、①前回の会合で、インドから、地域グループ成立という提案をしたいという旨の発言がございまして、次回の会合で議論される見込みでございます。②公衆衛生関連の提案が複数出されておるところです。2022年、昨年7月の会合でギリシャから提出されたほか、3年近く前ですけれども、2020年5月の会合で中国から提案されている状況でございます。③IECから「都市情報モデリングと都市のデジタルツイン」の合同作業のリエゾン文書が提出されまして、議論の結果、JCA-IoT and SC&C、JCAはジョイント・コーディネーション・アクティビ

ティーというものですけれども、I o Tとスマートシティ・アンド・コミュニティのJ C Aというもので、こちらが本件の連携に対応することにより、この共同コンビナーに副議長をされておりますN E Cの山田様を選出されている状況でございます。

私からS G 2 0の御説明は以上です。

○三瓶部会長 ありがとうございます。

では、S G 2 0副議長の山田様より、補足コメントがあればお願いいたします。

○山田様 N E Cの山田でございます。S G 2 0の副議長を担当させていただいております。

直近の活動で、日本、日本企業の貢献について、少し補足させていただきたいと思えます。国内では道路とか橋、トンネル等の交通インフラの老朽化が著しいところで、これの劣化診断をI o T、センサーからの情報を用いて診断するというシステムの機能要件、これを国際標準にするという活動を沖電気さん主導で行いまして、昨年、作業を完了しまして、Y. 4 2 1 0という国際標準として完成をしているところでございます。今後もこのような日本国内の社会課題、かつ、それも世界共通の課題みたいなところをI T U-Tで国際標準化をして、海外展開、インフラ輸出といったところに貢献できるようにしていきたいと考えております。

もう1点、S G 2 0の配下にもF Gが一つございます。それは農業に関するもので、農業におけるA IもしくはI o Tの活用といった標準化の前の段階の議論、つまり、今、ユースケース、事例を集めるといった活動をしているところでございます。

以上です。ありがとうございます。

○三瓶部会長 ありがとうございます。

それでは、最後にT S A G関連の活動状況につきまして、事務局より御説明をお願いします。

○重野国際情報分析官 T S A G、電気通信標準化諮問委員会につきまして御説明いたします。研究対象は「I T U-T活動の作業方法、S G構成・S G間調整、戦略・計画、W T S A準備」でございます。我が国からは、副議長としましてN E C、永沼様を選出されております。

2. 最近の主な議論としまして3点挙げております。①今会期のT S A G会合の体制の承認ということで、従来はT S A Gプレナリの下にラポーターグループを複数設置し

ておりましたが、TSAGプレナリとラポーターグループの間に2つのワーキングパーティー（WP）を設置する体制としました。これによりまして、ラポーターグループの作業をWPで承認する体制となりました。②メタバースFGにつきましては、先ほどSG16でも触れましたけれども、扱う領域が幅広いことから、親SGをSG16ではなくTSAGとして設置することが承認されたところです。③次会期、来年のWTSAの後なので2025年から2028年の会期のSG構成に向けた議論につきましては、前の会期、2022年のWTSAまでに検討しましたSG再編のアクションプランの今後の進め方が議論されまして、今後の進め方について承認されたという状況でございます。

私からTSAGの御説明は以上です。

○三瓶部会長 ありがとうございます。

それでは、TSAG副議長の永沼専門委員より、補足コメントがあればお願いいたします。

○永沼専門委員 NECの永沼でございます。

ただいま重野様より御説明いただいたとおりでございますが、12月にTSAG会合第1回が開催されております。

2の最近の主な議論の1番目で、今回、2つのWP制になったというところで、その下、実際の議論というものはラポーターグループで行われていくわけですが、今回、4つのラポーターグループが立ち上がっております。WP1は基本的に作業方法のところ、それからWTSAの準備をしていきますので、これらに関するラポーターグループが立ち上がっているということでございます。WP2に関しましては、SGの構成とか調整を行うところです。それと、研究対象には書いていないんですが、今、TSAGの中で一つ大きな話として、インダストリーエンゲージメントというものがございます。これはつまりは産業界をどう巻き込んでいくかというところで、そちらに関するラポーターグループも立ち上がっているところでございます。この体制をもちまして進めていくわけですが、特に3番目にあります次会期の再編に向けた検討というのが、多分、日本の方も結構関心の強いところであると思っておりますが、こちらに関しましては、SG構成の部分で議論していくことになっております。こちらのラポーターとしまして、私がラポーターを拝命しまして、特に次の構成につきましては、アメリカの方を専任のアソシエートラポーターという体制を敷いておりますので、これらを議論していくこととなります。ここの研究対象になっている（1）にある内容につきましては、いずれも非常に重要な

トピックとなっておりますが、次のWTSAが1年半後に来てしまうということで、今回の会期は非常に短いというところもありまして、細かな議論は、これから2月以降、それぞれのラポーターグループの中で、月に1回ずつ、ないしはもうちょっと多い頻度で、中間会合という形で議論を進めてまいりますので、非常に速い速度でいろいろな議論が行われていく状況にはなっております。適宜、こちらも日本のほうで対応していくというところをフォローしていきたいと考えております。

私からは以上です。ありがとうございます。

○三瓶部会長　　ありがとうございました。

以上、ITU-TのSG活動状況の全体につきまして御説明があったんですけども、先ほどおられなかったSG13の谷川様はまだですかね。

○重野国際情報分析官　　入られていないようですので、スキップでお願いいたします。

○三瓶部会長　　そうですか。はい、分かりました。

では、以上の御説明に対しまして、御質問、御意見ございますでしょうか。

なければ、取りあえず私から、SG5についてですが、SG5の研究対象に「循環経済」というのが入っているんですけども、これはどういう経緯で入ったのかということと、特にここには活動内容が書かれていなかったんですけど、どんなことをされているんでしょうか。

○高谷様　　SG5副議長の高谷でございます。

三瓶先生から御質問いただいた「循環経済」ですが、もともとICT機器にもデバイスを含め、ワイヤーであれば銅資源、ファイバー資源、いろいろ資源を使いますので、これの環境負荷を下げることと、もう一つは効率を上げる、サステナブルにするといったところで、WTSAで決まりました決議79にも書いてございまして、SG5の使命となっております。ここに書いていないところが、今回ちょうどCOP27がエジプトで開催されたこともあって、そこをメインにやっているラポーター、エジプトの副議長がメインでやっていたんですけど、そっちで手に負えなくなって、このところ、活動としてあまり進捗が進んでいないところもあって、主なトピックとして書いてございません、申し訳ございません。

○三瓶部会長　　そうですか。そうすると、これは循環経済全体をやっているというよりも、循環経済の中でITU-Tに関係する部分の資源循環とかが中心ということですか。

○高谷様　　そうですね。基本、ITUのミッションでございますキャリアもしくはベン

ダーに対して、そういったサステナブルなことが実現できるようなガイダンス等をつくっております。

○三瓶部会長 はい、分かりました。

では、ほか、いかがでしょうか。

○上村専門委員 すみません、よろしいでしょうか。

○三瓶部会長 どうぞ。

○上村専門委員 ソフトバンクでございます。

SG20で、インドから地域グループ設立提案の発言ということですが、ITU-U-T関連は、APTの下にはASTAPなんかがあるところですが、インドからの地域グループ設立提案、SG20なので、IoT、スマートシティ・コミュニティーというところですが、こちらの背景など、お分かりになりますでしょうか。

○重野国際情報分析官 山田様からお願いできますでしょうか。

○山田様 NEC、山田です。

御指摘のとおり、アジア太平洋地域にはAPT、ASTAPという組織が既にございまして、このインドからの提案については重複が懸念されることとなります。したがって、私どもとしては、まずはAPTでインドが提案している同様の活動ができるのか、まずASTAPで議論しましょうということをごちから側からサジェスションしていくという想定でおります。それに対しては、ほかの近隣の国とも協調しながら対応するというところがございます。インドがなぜこれを提案してきたかという真意はちょっと定かではありませんが、恐らく次の会期に向けて、WTS A、次はインドがホスト国であり、かなり力を入れている状況で、ポジション、役職を確保するとかという、何か裏の思惑があるのではないかと見ております。

以上です。

○上村専門委員 ありがとうございます。

ASTAP議長、岩田様もいらっしゃるんですが、何かその辺の情報等々、入っているものでしょうか。

○岩田専門委員 岩田です。私、議長でなくて副議長なんですけれども。

○上村専門委員 失礼いたしました。

○岩田専門委員 いろいろと関連の情報は集めつつあるんですけど、背景からすると、インドがoneM2MというIoTの標準があるんですけど、それを国家標準にし

てIoTを進めている中で、やはり力を入れているエリアなので、そういう発言があったのかもしれませんが。山田さんからありましたように、既にAPTの中にASTAPという枠組みがございまして、その中でITUのSGの関連情報については、EG (Expert Group) ITU-T、釘吉さんが議長をなされていますけど、そこでシェアされております。また、山田さんが議長を務めておりますEG IoTでそれらの関連の議論が行われている状況がございまして、ほかのアジアのSDOも含めて、ASTAPでやるべきであるということ、今、裏で調整しているところでございます。

以上です。

○上村専門委員 承知しました、ありがとうございました。

○三瓶部会長 ありがとうございます。

ほか、いかがですか。よろしいでしょうか。

○梶原専門委員 すみません、よろしいですか。

○三瓶部会長 はい、どうぞ。

○梶原専門委員 富士通の梶原です。私もSG5のところで、少しコメント、質問させていただきたいと思いました。比較的全般的に「中国からの新しい提案」という表現が多く文章に出てきているのですが、1点目の質問は、ITUのこのような活動において、地政学的な環境変化の影響有無など、中国のこのような標準化の動きに対して、今までと変わっていないのか、中国からの新しい提案がとても多いという印象を受けましたのでそのお話が1点と、一般論で申し訳ございませんが、SG5のところで、スマートフォンとサーバのCO2排出のガイドラインという箇所があり、これも中国提案で、グローバルに見て、どういう方向でガイドラインをつくらうとしていくのか、そのバックグラウンド、その辺の背景の要素があるのか、あるいは日本として、どのような方向のことを想定できるかということがあれば教えていただきたいと存じます。

○重野国際情報分析官 高谷様、お願いできればと思います。

○高谷様 再びNTT、高谷です。御質問いただき、ありがとうございます。

SG5のメンバーの中に、やはり中国の方が多くいますので、提案というのは多くなっております。その中で、昨今、やはりマネジメントチーム、ラポーターも含めて、今取り組んでいる一つの対策としては、どうしても中国の場合、こういった国際的な文書をつくると国ですごく褒められる、成果になるのか分からないんですけど、乱発してくるところがございまして。そのため、まず、エディティングのところと最初のスコープ

のところで、必ずそれがグローバルなキャリア、ベンダーに役立つのかというところで、その部分を議長、副議長、ラポーター、WP議長も含めて、まず、提案の時点で、かなり、もむようになっております。さらに、簡易的に電子投票でこういった勧告案も上げる、承認された後も、各国からのコメント等がございますが、その辺りの文章も私たちはかなり注意しております、その後、SGでもう一度、承認プロセスを踏むわけですが、その中で必ず、再度同じようなコメントをされないようにプロセスを踏むようなところがございます。一番は、やはり提案としてはいいものもたくさんあるんですが、どうしても文章力とかについては、まだまだのところが多い。経験不足の方が多いところがございますので、その辺り、マネジメントチームを含めて、SG5の中で、かなり意識してやっているところがございます。

2つ目の御質問ですけれども、こういったサーバとかスマートフォン、それぞれICT機器の一つ一つの要素でございます、国連からのミッションで、特にテレビ会議も含めて、従来は移動を少なくするというので、ICT機器というものはすごくCO₂排出を削減するということだったんですけれども、この辺をもう1回、ライフスタイルも仕事の仕方も変わったということで、本当にそれ自身のCO₂排出というものをきちんと、もともと移動手段に対してよかったという概念から、それぞれの本当の排出量というものをきちんと明確にやらないといけないようになってきてございますので、その辺りを正確に、テクニカルにも評価しながらやっていくといった方向性で進んでおります。回答になっておりますでしょうか。

○梶原専門委員 はい、御丁寧にありがとうございました。分かりました。

○三瓶部会長 ほか、いかがでしょうか。

よろしいですか。

(2) その他

○三瓶部会長 では最後に、議題2、その他に移りたいと思います。委員会の活動及びITU電気通信標準化局長選挙の結果につきまして、事務局より御説明をお願いいたします。

○重野国際情報分析官 事務局より2点、御報告させていただきたいと思います。

最初に資料20-2、エクセル表ですけれども、ITU部会における委員会の設置及

び運営についてというITU部会決定第5号におきまして、委員会の議事については、次の部会に報告するものとするとしております。

前回、ITU部会は昨年4月26日に開催されておりますけれども、それ以降に開催された6個の委員会の議事につきまして、資料20-2にまとめております。2つの委員会は開催がなかったですけれども、ほかの委員会は複数開催がありまして、特に地上業務委員会は、先ほど冒頭でも、委員による部会長の互選について御説明しましたけれども、今年1月20日に開催しております。

資料20-2につきましては以上でございます。

続きまして、参考資料20-3です。既に皆様御存じとは思いますが、昨年9月、内藤審議官からの挨拶でもありましたけれども、ITU幹部選挙におきまして、ITU-Tを担当する電気通信標準化局長にNTTの尾上誠蔵様が当選し、今年1月から既に着任しております。選挙結果の概要はこちらの資料でございます。総務省としても、尾上新局長が就任されたことを踏まえまして、ITU、それからITU-Tと今後より積極的に連携しまして、活動に対し、貢献してまいりたいと思います。

私からの御説明は2点、以上です。

○三瓶部会長 どうもありがとうございました。

では、ほかに皆様から何かございますでしょうか。

よろしいですかね。

ないようでしたら、以上をもちまして、本日の議事は全て終了となります。

では最後に、今後の予定などにつきまして、事務局よりお願いいたします。

○重野国際情報分析官 事務局でございます。

資料20-1、パワーポイントの最後のページの表示をお願いいたします。

ITU関連のスケジュール（ITU部会関連のみ）ということで、こちらにまとめております。

一番左下、本日、ITU部会がございまして、明日、電気通信システム委員会がございまして、いずれもITU-Tの現状報告をさせていただきます。

それから、今年の11月に、上のほうにRA-23、無線通信総会がドバイで開催される予定となっております、これに向けた答申を今後9月、10月頃にしていただくこととなります。それに向けまして、今年の5月頃に、本日はITU-Tでしたけれども、ITU-Rの現状報告をさせていただきたいと考えております。また、少し先にな

りますけれども、来年の11月頃には、WTSA-24が早くもあることから、来年はITU-T、それからWTSAにつきまして、主に御検討、御審議いただきたいと考えておるところです。

次の部会の日程につきましては、部会長と調整の上、別途、事務局より御案内を差し上げますので、よろしく願いいたします。

私からは以上です。

閉 会

○三瓶部会長　　ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、ITU部会第20回会合を閉会いたします。本日はお忙しいところ、どうもありがとうございました。